

「ドキュメンタリー映画監督が見たフクシマ」

東日本大震災から、まもなく5ヶ月。事故後の福島原発とその周辺に住む人々を密着取材した、ドキュメンタリー映画監督・海南友子による、初の報告会です。

昨年、全国で公開されたドキュメンタリー映画「ビューティフルアイランズ～気候変動 沈む島の記憶～」の海南友子監督が、事故後の福島原発とその周辺で生活を営む人々を、密着取材しました。

「原発のおかげで私たちは東京で豊かに不自由なく暮らしてきた。東京のシステムの心臓部は福島にあった。事故の責任の一端は、東京に住む自分にある」海南監督は、取材の動機をこう語ります。放射能汚染により「警戒区域」に指定され、日常生活と故郷を突然奪われた人々の心に寄り添いながらカメラを回した海南監督。取材後、自身の妊娠が分かり、子どもの将来を憂う親の苦しみが、これまでに増して心に迫ってきた、といいます。今回の講演会は、これまでの取材内容を、映像をふんだんに交えた、初の報告会となります。

<海南 友子 かなともこ>

1971年東京生まれ。日本女子大学在籍中、是枝裕和氏のテレビドキュメンタリーに出演したことがきっかけで映像の世界へ。NHKを経て2000年に独立。01年戦争の被害者を描いた『マルディエム 彼女の人生に起きたこと』でデビュー。04年の『にがい涙の大地から』で黒田清・日本ジャーナリスト会議新人賞、平塚らいてう賞を受賞。10年、気候変動に揺れる3つの島(ツバル、ベネチア、シシマレフ島)を描いた映画『ビューティフル アイランズ～気候変動 沈む島の記憶～』で、プサン国際映画祭でアジア映画基金 AND 賞受賞。2010年日韓ロードショー公開。

<最新情報>いわさきちひろ・初のドキュメンタリー映画を製作！親族、友人、編集者、作家など、生前のいわさきちひろを知る50名への取材をもとに、海南監督が、ちひろの人生をたどる初のドキュメンタリー映画を製作中です。山田洋次をエグゼクティブ・プロデューサーに迎え、2012年劇場公開予定。



イベント名：ドキュメンタリー映画監督が見たフクシマ

会 場：ちひろ美術館・東京 2階 図書室

日 時：8月27日（土）17:15～18:45

定 員：60名

参 加 費：500円（開催中の展示もご覧になる場合は、16:30までに来館、入館料別。
入館料・大人800円 高校生以下は入館料無料。）

◆読者・視聴者向けプレゼント◆

招待券を5組10名様分ご用意します。下記にお問い合わせ下さい。

ちひろ美術館・東京 <http://www.chihiro.jp/> 広報担当 原島・川口・北村

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

E-Mail: publicity@chihiro.or.jp Tel:03-3995-0772 Fax:03-3995-0680

報部

FAX 03(3595)6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

四月十一日。震災から一ヶ月後。私は福島県いわき市にいた。福島第一原発の事故で被災した町をドキュメンタリー映画に記録するためだ。

事前の取材で、原発のある大熊町で半導体関連の工場を経営していた岩本久美さん(?)と知り合っていた。その日は翌日、岩本さんが避難区域に入れる日だった。避難先のいわき市で工場を開くため、必賛在籍材を取りに自宅に戻らうとしていた。

「帰宅」手順の確認をする岩本さんを取材していたその時、震度6弱の余震が発生。激しく揺れた次の瞬間停電した。取材を切り上げて宿に向かったが、信号が全停止し、道は大渋滞。激しい雷と豪雨にも襲われた。ラジオからは津波注意報の情報。津波が車や家をのみ込む震災当日の映像が脳裏を

フクシマからの報告

海南 友子

後で分かった妊娠



避難先の東京で親戚の家に身を寄せていた小山さんと次男

親の苦しみ切実に

府と東電の中小企業に対する対策は遅すぎる」と憤る。

夫婦と妻の両親、二人の

娘とともに、喫煙室や旅館を転々とする大熊町の小

山田さん(?)一家にも取

りとしました。余震や津波では」という不安で、まん

震災直後のメルトダウンの

じりともせず夜を明かし

事実を発表。もし知つてい

たら、福島には帰つていな

い。あの日、吸い込んだ風

を帰れるのか、そればかり

考へている」と言う。

断水、絶え間ない余震。と

で命を落とす恐怖と「余震

守るか、に直面した。

東京電力は五月になつて

山田さん(?)一家にも取

りました。今も家族六人で食

事実を発表。もし知つてい

たら、福島には帰つていな

い。あの日、吸い込んだ風

を帰れるのか、そればかり

考へている」と言う。

断水、絶え間ない余震。と

で命を落とす恐怖と「余震

守るか、に直面した。

東京電力は五月になつて

山田さん(?)一家にも取

りました。今も家族六人で食

事実を発表。もし知つてい

たら、福島には帰つていな

い。あの日、吸い込んだ風

を帰れるのか、そればかり

考へている」と言う。

断水、絶え間ない余震。と

で命を落とす恐怖と「余震

守るか、に直面した。